

暮らしの今昔を方言句で詠む

募集期間	6月期 令和8年4月1日(水)～30日(木)		
講座概要	方言は地域の言葉として、私たちの生活に密着しています。この講座では、なつかしい生活や今の生活の風景を、自分にとって身近な方言や興味のある方言を使って句として残します。方言句を詠むことで、記憶の風化を防ぐだけでなく、失われつつある方言の記録・継承に寄与することも目指します。外国語として日本語の方言に関心を寄せる人も歓迎します。		
目的	<ul style="list-style-type: none"> ・方言を通じて日本語の多様性を理解する。 ・方言が持つ表現の力について考える。 ・昭和や平成の記憶の風化を防ぐ。 ・方言の記録・継承に対する関心を高める。 		
講師	櫛引 祐希子	所属	多文化教育系 グローバル教育部門
受講対象	一般市民向け		
受講料	6600円	定員	15名
実施方法	対面 (全3回)	開催方法	天王寺キャンパス
注意事項			
持参物			
備考			

回	日程	時間	内 容
1	6月27日(土)	13:00 ~ 15:00	方言の記録・継承から考える方言句の意義
2	7月18日(土)	13:00 ~ 15:00	方言句を詠む際の心得
3	8月29日(土)	13:00 ~ 15:00	方言句のお披露目と次世代に繋げる方言の力

～講師プロフィール～

櫛引 祐希子 (多文化教育系 グローバル教育部門)

東北大学大学院修了。博士(文学)。大阪教育大学グローバル教育部門で地域社会の実態に応じて活躍できる日本語教員の養成に取り組んでいます。方言研究者として、日本語の方言語彙や言語行動の地域差について研究してまいりました。また、文化庁の委託事業を受け、東日本大震災の被災地である宮城県をフィールドにして、方言が地域社会の活性化や個人の自己実現に与える影響に関する調査研究も進めています。本講座では、皆さんと共に方言句を詠むことで、各地域の方言の記録・継承の新しいあり方を模索したいと思います。